

悠久の歴史の地、創建1300年の多賀城を紹介します



南門と壺碑



南門アップ

多賀城市は、地理的には宮城県のほぼ中央に位置し、東北の中心都市の仙台市に隣接しております。太平洋に面していることもあり東日本大震災時の被害が甚大でありましたが、今回ご紹介する多賀城跡は、高台に位置しており津波の到達は免れました。

昔、東北地方は「蝦夷（えみし）」と呼ばれ、京都や奈良といった都を中心とする大和朝廷とは異なる人々が暮らしていました。大和朝廷がその蝦夷と対峙する最前線の拠点を設け、戦いが終わった後も陸奥国の国府として重要な位置を占めていました。「多賀城市」という名前は、奈良・平安時代に置かれていた城柵の「多賀城」に由来します。城柵とは、朝廷が築いた軍事・政治拠点のことで、この地が古代東北地方の中心地であったことを意味しています。

約1300年前の奈良時代・神亀元年（724年）に、古代律令国家・政府の支配が及んでいなかった東北地方を統治するため行政組織である「陸奥国府」を設置し、後に兵士の駐屯・監督所である「鎮守府」が置かれました。そして11世紀の中頃に終焉を迎えるまで、古代東北地方の政治・軍事の中心地としての役割を果たしました。

多賀城は仙台平野を一望する丘の上に建ち、一辺が約1kmほどもある築地塀に囲まれた広大な施設でした。築地塀には櫓が取り付けられていて見張台の役目以外に多賀城の正面を荘厳に飾る狙いがあったと考えられています。



多賀城跡の規模と南門の位置

今回再建された多賀城南門は 8 世紀中頃のもので、多賀城外郭に設けられ、東北の経営の中心であった多賀城の入口にあたる重要な施設とされていたものです。

また、多賀城には、南門・東門・西門が存在したことが明らかになっていますが、多賀城の正面となる南門は政庁正面にかけて約 350m の直線道路が延びており平面規模・構造から考えると、二重門形式の極めて格式高い門であると推測されています。



公開直前の南門

多賀城市では、新たな観光名所とするべく「創建 1300 年記念事業」としてこの門の復元を決定しました。工事を当時の建築方法を用いて実施・完成し、このたび本年 4 月から正式に一般公開されます。

中央にある政庁跡は、重要な政務や儀式が行われた場所でした。約 1km 四方の広さを持ち、周囲を高さ約 5m ほどの堀で囲むことで外敵からの攻撃に備えていました。

広い敷地の中には、当時の建物や堀があったといわれる場所を示すための石や建物の土台などが残されています。堀の内部には、政庁などの各官庁の建物や兵舎などが設けられていました。当時の建物は一切残されていませんが、ここは、なんと京都ができた平安京以前の時代に作られた場所なのです。

その後、日本は平安京、西の大宰府、そしてこの多賀城と、それぞれの地方を治めるための拠点となっていました。



政庁正殿説明看板



多賀城跡

多賀城南門の傍らに覆い屋に納められた古代の石碑（多賀城碑）が立っています。神亀元年（762 年）に建立されたものが江戸時代の初めに発見され、西行や源頼朝が和歌に詠んだ歌枕ゆかり地の壺碑（つぼのいしづみ）であることが知れ渡り、俳人松尾芭蕉や多くの文人墨客が訪れております。

平安時代には都の貴族たちはこの地を「みちのく」の名で憧れ、国府の官人だけでなく幾人もの歌人が歌を詠んでおり、歌枕の地とも伝えられてきました。



覆い屋の多賀城碑



多賀城碑

この碑には、京からの距離と多賀城の創建・修造などの記録が141文字に刻まれております。永らく歴史的価値が問いただされておりましたが、令和6年8月国宝と正式に指定されました。現在は日本三古碑ひとつに数えられています。

日本三古碑（にほんさんこひ）は日本各地に点在する古代碑のうち、書道史の上から極めて重要とされている碑（金石文）に関する名数で、宮城県多賀城市の多賀城碑、群馬県高崎市吉井町の多胡碑、栃木県大田原市的那須国造碑、および京都府宇治市の宇治橋断碑がそれぞれ日本三古碑と呼ばれているそうです。

江戸時代、奥の細道で松尾芭蕉が壺碑を訪れた際には、かつての姿を失った他の歌枕や旧跡が多くあるなか、壺碑だけは千年前と変わらぬままの様子であることに感動して涙を流し、芭蕉の俳諧の理念「不易流行（ふえきりゅうこう）」が生まれる端緒になったともいわれています。

芭蕉が『おくのほそ道』の旅で『壺碑』を目指し、仙台を立つ際に「あやめ草足に結ばん草鞋の緒」の一句を詠んでいることを記念して、多賀城市は「あやめ」にちなんだ俳句を募集し「あやめ俳句大会」が毎年秋に開催されています。

多賀城跡領内にあるあやめ園には300万本ものあやめや花菖蒲などが栽培されています。見ごろは6月から8月頃で、最盛期になると紫や白や黄色等の花々が一斉に花を開き、その姿は大変壮観です。

毎年6月には「多賀城跡あやめ祭り」が開催され、あやめや菖蒲の購入ができるほか、出店や売店も多く軒を連ねて、地元の方や観光客などで大いに賑います。



コロナ禍前のあやめ園 ①



コロナ禍前のあやめ園 ②



コロナ禍前のあやめ園 ③

（報告： 東北支部 喜多見さん）